

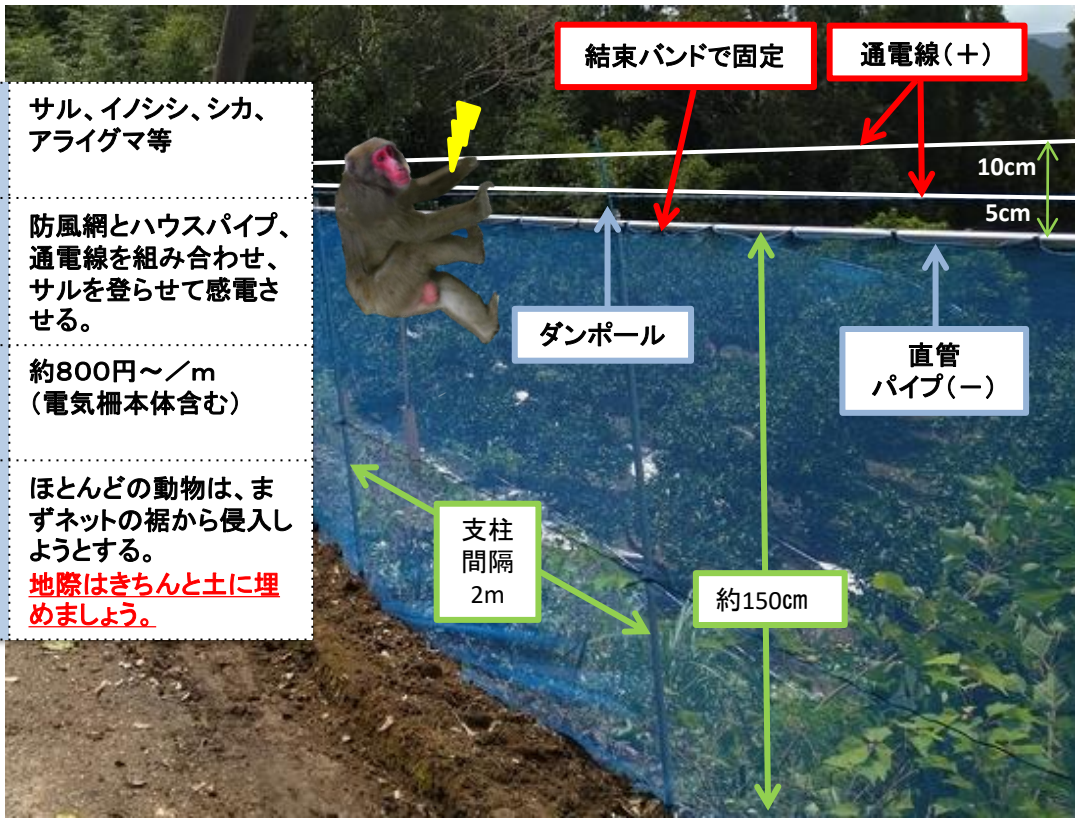
電落くんの仕組みを学ぼう！

2022
7
Vo.40

鳥獣センター通信

発行元 鳥獣被害対策支援センター
☎0985(44)1816

対象獣	サル、イノシシ、シカ、アライグマ等
概要	防風網とハウスパイプ、通電線を組み合わせ、サルを登らせて感電させる。
コスト	約800円~/m (電気柵本体含む)
備考	ほとんどの動物は、まずネットの裾から侵入しようとする。 実際はきちんと土に埋めましょう。



防風ネットと電気柵を組み合わせた複合柵『電落くん』

こちらも
必見！



※サルの攻撃を華麗にかわす室屋技師

6月30日のNHKニュース番組(てげビビ!)の一般視聴者からの疑問に答えるコーナー「てげ探！」にてサル特集が放送されました。今回のテーマは「宮大に現れたサル、どこから来たの?」で、サルによる被害状況や対処法まで紹介されており、鳥獣被害対策支援センターの室屋技師が出演しました。見逃したー!という方、ご安心ください。NHKのホームページで内容が確認できます。「みやざきWEB特集 てげ探」で検索!

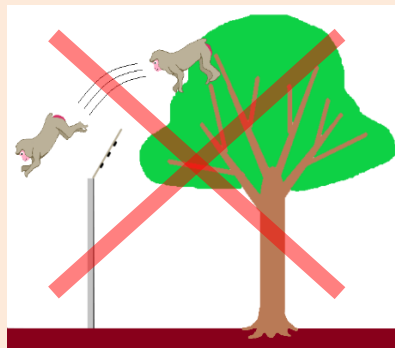
①電落くんの特徴

・登らせて感電!
基本的な構造は、直管パイプで骨組みを作り、そこに防風ネットを張り、この棚の上にブラスの電気を流した柵線を設置したものです。
侵入しようとする野生鳥獣は防風ネットを登り、一番上の直管パイプに足をかけてその上の柵線をつかみます。この時、直管パイプがアース(マイナス)となり、感電します。



②設置のポイント

・設置位置に注意
サルが柵の中に飛び込みそうな、高さ1m以上の木やフェンス、建物がある場合は、柵の位置を3m以上離します。



本柵は、【埼玉県農業技術研究センター】が開発したものであり、同センターのHP上に、設置マニュアルが公開されていますので、御参照ください。

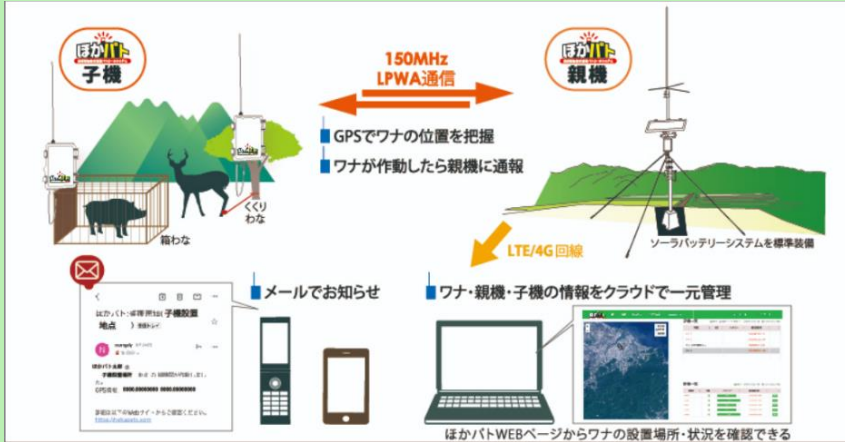
☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

西臼杵地域

○経緯 ぐくりわなの見回りの省力化に向けて、日之影町有害鳥獣対策協議会が、令和3年度交付金事業を活用して導入した、無線式捕獲通知システム（製品名ほかパト）についてご紹介いたします。

○システム概要（下図） 本システムは、捕獲センサー（子機）、基地局（親機）、クラウドサーバーからなります。わなに獣がかかると、捕獲センサーが感知して基地局に通信します。基地局は、LTE回線を介してクラウドと通信し、捕獲員の端末に自動的にメールが届く仕組みです。令和3年度は、捕獲センサー（子機）50基、基地局（親機）2基を整備しました。

○今後の方向性 令和3年度の運用を通して、通信面などの課題が明らかになりました。今後は、基地局の設置位置・増設等の見直しや、見回り行程の効率化など、運用の改善を図ることにより、捕獲員の見回りの負担を軽減し、高齢の捕獲員でも継続的に捕獲を行うことができる体制づくりを図ることとしています。



○出典：ほかパトHD（URL：<http://hp.com/products/hokapato/>）

中部地域

綾町は、日向夏等の栽培が盛んな地域ですが、鳥類による被害に悩まされています。鳥対策で一般的に使われる爆音機は、近隣住民からの騒音苦情等もあるため、昨年度、爆音機より騒音が少ないバードパンチャーとトリサッタの実証ほ（カラス対策）を設置しました。

今回は地域で初めて利用したトリサッタについて紹介します。トリサッタは、フクロウの形をした本体を支柱に吊し、鳥が怯える断末魔の音声や嫌がるスリープ音（電子音）を断続的に流し追い払う装置です。

まず、機器の設置については、バードパンチャーが、2〜3人で、30分ほどかかったのに比べ、支柱（3m）固定のみの作業で1〜2名で10分程度でした。

設置後は、鳴き声への慣れ防止のため、音声切り替えを行う上げ下ろしの作業が必要でした。設置後数時間はカラスが上空を飛び回り、様子をうかがっていましたが、その後は近づくことがなくなりました。

設置時は最大音量としていますが、近隣住民からの苦情があり、途中から最小音量に切り替えるの実証となりましたが、その後もカラスの飛来はなく、効果を示していました。

トリサッタはバードパンチャーに比べ、設置作業には時間がかかりませんが、音の切り替え作業等の管理が必要となります。しかし、生産者も効果に満足しており、鳥対策の有効な手段であると思われました。



①バードパンチャー設置作業



②トリサッタ設置作業